

利根地域において不足する外来医療機能について（案）

1. アンケート結果のまとめ

委員数 33 人

不足感の程度	初期救急医療	在宅医療	公衆衛生			介護認定審査
			産業医	学校医	予防接種医	
◎	3人 (9.1%)	5人 (15.2%)	1人 (3.0%)	1人 (3.0%)	1人 (3.0%)	1人 (3.0%)
○	11人 (33.3%)	12人 (36.4%)	8人 (24.2%)	6人 (18.2%)	4人 (12.1%)	11人 (33.3%)
△	6人 (18.2%)	4人 (12.1%)	2人 (6.1%)	4人 (12.1%)	5人 (15.2%)	2人 (6.1%)
×	1人 (3.0%)	0人 (0.0%)	3人 (9.1%)	5人 (15.2%)	8人 (24.2%)	2人 (6.1%)
—	12人 (36.4%)	12人 (36.4%)	19人 (57.6%)	17人 (51.5%)	15人 (45.5%)	17人 (51.5%)

※回答の目安 ◎：とても不足していると感じる ○：やや不足していると感じる
 △：あまり不足していると感じない ×：不足していると感じない
 —：無回答・わからない

2. アンケートで寄せられた主な意見

【初期救急医療】

(行 田)

- ・市内の2病院が交代で対応しており、件数が多いが、対応困難とまでは聞いていない。

(北 埼 玉)

- ・一次救急対応を行う医療機関が減少し、軽症例でも特定の医療機関に集中しがちを感じる。
- ・羽生市内では夜間対応可能な医療機関が限られている。

(南 埼 玉)

- ・休・祭日はある程度充足できているが、平日夜間の一次救急は不足していると思われる。
- ・夜間休日に1日当たり30～40名程度の受入を行っており、入院加療が必要な中等症から重症の方は1割強である。
- ・夏季・冬季の繁忙期に、夜間、休日ともに患者が集中することがあり、やや不足感を感じる。また耳鼻科系疾患や小児科系疾患の医療連携を行う際に不足感がある。
- ・久喜市では平日夜間の初期救急が整備されていないほか、小児については非常に厳しい状況にあると感じる。
- ・蓮田市では夜間初期救急が実施されていない。小児初期救急が不足していると感じる。
- ・白岡市では休日診療所は医師会の協力により市内医療機関1か所で内科診療を実施している。小児については小児科医の不足により休日及び夜間診療体制が整備できていない。

(北葛北部)

- ・二次救急が疲弊しないよう、一次救急を充実されたい。
- ・夜間初期救急の実施が12～3月までの冬季に限られている。

【在宅医療】

(行 田)

- ・行田中央病院を拠点病院として連携を行っているが、今後は患者の増加が予想されるため、対応クリニックの増加が望まれる。
- ・退院時に在宅医療提供を希望された患者の相談先を見つけることが難しく、退院までに時間を要している。在宅医療を提供している医療機関には依頼が集中してしまうため過度の負担がかかっていると思われる。

(北 崎 玉)

- ・対応する医療機関が増加していると感じるが、今後も高齢化が進むことを考えると充実を図っていかねばならない。
- ・羽生市内では訪問診療に携わる医療機関が限られている。

(南 崎 玉)

- ・参入しているクリニックは増加しているが、地域全体にバランス良く行われている感じは少ない。
- ・近隣の在宅状況としては毎日遅くまで診療を行っていると聞いている。地域の人的医療資源が明らかに不足していると感じる。
- ・白岡市内にある訪問診療対応機関は、診療所7施設、病院1施設であり、役割分担は比較的良好に行われているが、他地域の医療機関の参入もあり、その点からしても不十分と考える。
- ・医師一人の診療所が多く、訪問診療に対応する診療所が増えていない現状があり、今後の在宅医療需要に柔軟に対応できる体制としては不足感がある。
- ・訪問診療に対応できる医療機関が少ない。

(北葛北部)

- ・開業医に浸透していない。
- ・通院困難者が増加している。在宅療養を希望する患者は非常に多いが、在宅医の不足により在宅医療への移行が困難となっている。
- ・在宅診療を実施している医療機関はあるが、在宅診療を専門で実施しているところは少ない。

【公衆衛生（産業医）】

(行 田)

- ・産業医が高齢化しているほか、今後の需要の増加も予想される。

(北 崎 玉)

- ・一人の産業医が多くの企業に対応しているところもあり、担い手の増加が必要である。
- ・圏域外の医師を選任している事業所が見受けられる。

(南 崎 玉)

- ・ 医師会への紹介依頼に対して十分に紹介できない。産業医取得のための公衆の時間的負担が大きく、減少傾向にある。
- ・ 企業から産業医の依頼が当院にも来ている状況を鑑みると不足しているのではないかと。当院においても産業医は県ができるほど充足していないため対応ができていない。
- ・ 一人の産業医が複数の事業所に選任されている。

【公衆衛生（学校医）】

(南 崎 玉)

- ・ 学校業務（特に検診）において専門的知識を要する事項が増え、小児科、内科以外の医師にお願いしにくくなっている。
- ・ 地元医師会の努力で何とか成り立っている状況であると感じている。
- ・ 久喜市では眼科医、耳鼻科医を全校にお願いできていない状況にある。
- ・ 一人の医師が複数の学校の学校医として協力いただいている状況である。

【介護認定審査】

(行 田)

- ・ 医師会院が当番制で参加しているが、毎週の参加は困難との声もある。

(北 崎 玉)

- ・ 介護認定審査会においては医師会の協力のもと医師を配置し、適正に合議体が保たれているが、意見書の作成に時間を要している。

(南 崎 玉)

- ・ 時間的負担が大きく、受けてくれる医師が少ない。
- ・ 審査の負担も大きく、医業にも影響を与えている状況もあり、医師にとって負担感が大きい。
- ・ 委員として引き受けていただける医師が減少しており、選任する医師が固定化している。

(北葛北部)

- ・ 内科や整形外科のほか、小児科医等にも審査会委員をお願いしている状況である。

【その他】

(行 田)

- ・ 眼科と耳鼻科が市内で2か所ずつしかなく、不足しているとの声がある。
- ・ 周産期医療、産婦人科医に不足感がある。

(北 崎 玉)

- ・ 訪問歯科の不足を感じると同時に、在宅・施設の要介護者や要介助者に歯科的医療が必要との認識が不足していると感じる。

(南 崎 玉)

- ・ 内科系専門外来機能に不足感がある。

- ・小児科、婦人科、産婦人科の医療機能に不足を感じる。
- ・高齢化の進展により要介護認定の申請者が増えているとともに、かかりつけにする医療機関が特定の医療機関に集中し、要介護認定に必要な主治医意見書の作成に時間を要することがある。高齢者が住む慣れた地域に開業する医療機関（かかりつけ医）の充実が必要である。

（全 域）

- ・小児の発達障害、情緒障害、こころの問題に対応する医療機関及び行政機関が非常に不足している。県内市町村で医療機関の補助的機能を持った窓口を増やしてほしいとともに、公的病院で専門外来を拡大していただきたい。

3. 計画本文への記載内容

アンケートの回答内容を、郡市医師会の区域単位でとりまとめた上で、以下のとおり計画に記載してはどうか。

計画変更素案 本文 P25

(3) 各区域において不足している外来医療機能

本県では、各区域の協議の場を活用して、区域ごとの外来医療機能の不足感について意見聴取を行いました。

提出された意見に基づき、夜間や休日等における初期救急医療、在宅医療、産業医・学校医・予防接種等の公衆衛生や、介護認定審査に係る医療提供体制の4項目について、区域ごとの状況を取りまとめました。

これらの項目以外の意見については、県ホームページで情報提供します。

ク 利根区域

（行田地区）

- ・在宅医療、公衆衛生（産業医）、介護認定審査にやや不足感がある。

（北埼玉地区）

- ・初期救急医療、在宅医療、公衆衛生（産業医）、介護認定審査にやや不足感がある。

（南埼玉地区）

- ・初期救急医療、公衆衛生（学校医）は不足感が強い。
- ・在宅医療、公衆衛生（産業医）、介護認定審査にやや不足感がある。

（北葛北部地区）

- ・在宅医療、介護認定審査は不足感が強い。
- ・初期救急医療、公衆衛生（産業医・学校医）にやや不足感がある。